

# 業務連絡

2020年12月28日  
JR東海労新幹線関西地本  
編集 業務部 No.14

2020年12月22日、新大阪日之出会議室において「申」第18号について、会社は団体交渉の開催を拒否し、会社側幹事から口頭による回答がありました。

以下、組合の申し入れと会社回答。

政府のGoToトラベルキャンペーンと秋の行楽シーズンにより、新幹線のお客様が増加している状況がある。指定席の乗車率が90パーセントを超える列車もあり、車内が三密状態になっていてコロナ感染の危険性が高まっている。まさに危機的状態と言える。私たち東海労は、お客様の安全を最優先に考え三密を避ける対策を求める。

1. 11月1日以降の「のぞみ号・ひかり号・こだま号」の乗車人員と乗車率を明らかにすること。

【会社回答】11月の乗車人員については、東京口での実績で、全体としては前年比50%、列車種別では、のぞみが52%、ひかりが42%、こだまが48%である。12月の乗車人員については、16日までの東京口での実績で、全体としては前年比41%、列車種別では、のぞみが41%、ひかりが35%、こだまが44%である。これ以上詳細な情報については明らかにする考えはない。

2. 全国での1日のコロナ感染者が2000人を超えている。今後も感染者の増大が予測されている中で、お客様に対してのコロナ感染予防の対策を考えているのかどうか明らかにすること。

【会社回答】新型コロナウイルス感染拡大防止対策に関する取り組みは、駅や車内・ホームページ等でお知らせしている通りであるが、引き続きお客様にもご協力頂きながら、国や自治体の要請等を踏まえ、適切に対応していく。

3. 車内で業務する車掌に対するコロナ感染の危険が高くなっている。新たに車内におけるコロナ感染予防の対策を考えているのかどうか明らかにすること。

【会社回答】当社の社員に関しては、こまめな手洗いや手指の消毒等による感染予防や検温等の健康管理を徹底している。今後も状況を踏まえ、必要な対策を適切に行っていく。

4. 東京発下りのぞみ号の博多行き列車に乗車率が90パーセントを超える列車が見受けられる。何らかの処置を講ずる必要があると考える。会社としての見解を明らかにされたい。

【会社回答】お客様のご利用動向に合わせ、十分な輸送力を提供していく。

5. 車内における三密対策として、当面の間、指定席のB席とD席の発売を中止すること。

【会社回答】支社権限外事項ではあるが、会社としてそのような考えはない。引き続きお客様に安心してご利用頂けるよう、必要な対策を適切に行っていく。

以上